

(1) 教育活動の目標と方策	(2) 重点目標と方策 [ ]内は令和6年度数値
<p><b>1 特色ある教育活動</b></p> <p>(1)SSH 指定校として、課題研究を中心とした探究カリキュラムを構築し、諸課題を解決する創造的・論理的思考力の育成を図る。</p> <p>①科学技術に関する実験・実習の内容を充実させて専門性を高める。課題研究等で自らテーマを設定し、検証・分析して考察する取組を受実させる。</p> <p>②創造理数探究基礎、SS 科学技術探究等の学校設定科目を中心に、教科を横断した生徒の探究的学びへの指導法を工夫し、全ての生徒の研究発表の機会を支援する。</p> <p>③SS 工学技術基礎などのカリキュラム開発を推進する。</p> <p>④カリキュラムマネジメントを働かせ、専門教科と普通教科を連携させた実践例を積み重ねる。</p> <p>⑤小・中学校や他の高校と連携して、科学技術教育の普及を図り、科学技術人材を育成する。</p> <p>⑥SSH 予算の図書購入、図書館利用の活性化により読書率を向上させる。</p> <p>(2)英語研修や発表等による交流活動を推進し、コミュニケーション能力を高め、グローバル人材の育成に資する。</p> <p>①英語をツールとして自分の考えを伝えるための英語研修を実施する。</p> <p>②インドの高校生を招へいし合同発表の実施等、海外校との交流活動及び共同研究を活性化させる。</p> <p>③海外若手研究者等の講演会を多くの生徒が参加できるよう工夫していく。</p> <p>(3)学校の将来像を見据え、研究室訪問や企業体験活動など、大学・企業との連携実践例を増やし、キャリア教育を推進する。</p>	<p>(1)校内の課題研究発表会を全員参加型として、校外の研究発表件数の増加、生徒の主体性を育成し発信力を高める。</p> <p>①生徒の主体性を伸ばすポスター・口頭発表等の校内発表の充実と校外における研究発表会への参加を活性化する。</p> <p>②全国レベルの研究発表会やコンテスト等に挑戦する活動を推進する。</p> <p>(2)英語研修プログラムやオンライン・対面での国際交流に取り組み、生徒の苦手意識を払しょくして問題解決力・発信力を高め国際理解教育の充実を図る。</p> <p>①夏季休業中にエンパワーメントプログラムを実施する。</p> <p>②台湾・インドとのオンラインや対面での交流を実現し、海外連携校との共同研究を実施する。</p> <p>(3)大学等の研究室訪問や大学等実施の講演会、企業実施の体験会や民間企業研究者の講話等への参加機会を創出。本校における成果の公表・普及を実施。</p> <p>【数値目標】①校外研究発表の件数 200 件以上 [212]</p> <p>②全国大会レベルの受賞件数 20 件以上 [23]</p> <p>③SSH 関連研修・イベント参加生徒延べ人数 650 名以上 [680]</p> <p>④海外交流、海外研究者講演会、英語研修 10 件以上 [6]</p> <p>⑤大学・企業との連携活動への参加生徒述べ人数 200 名以上 [280]</p> <p>⑥読書率 75%以上 [70]</p>
<p><b>2 学習指導</b></p> <p>(1)「主体的・対話的で深い学び」を実践する。</p> <p>①基本的な知識・技能を習得させるとともに、それを活用できる学習活動に取り組む。</p> <p>②双方向の授業を行い、生徒が思考・判断・表現する場面を設定することにより、生徒の主体的な態度を醸成する。</p> <p>③相互授業参観を活性化し、OJTを充実させる。</p> <p>④外部での授業研究等の研修成果を教科会等で還元し、授業改善を図る。</p> <p>⑤朝・放課後等の学習活動、補習・補講を活用してきめ細かな指導を充実させる。</p> <p>(2)新学習指導要領・大学入学共通テストに対応するために、「教科マネジメント」を確立する。</p> <p>①3年間を見通した指導計画に基づき、系統的・効果的に学力向上を図る。</p> <p>②小テストの結果や課題提出状況を指標として、生徒自身が主体的に取り組む態度を身に付けることができるような指導の機会を作る。</p> <p>(3)到達度テストや進路部の学習時間調査などで家庭学習時間を把握し、授業時間以外での学習を充実させるとともに、学習習慣の定着を図る。</p>	<p>(1)授業改善に組織的に取り組み、生徒の学力向上を図る。</p> <p>①生徒による年2回の授業評価アンケートを実施し、結果を分析して改善につなげる PDCA サイクルを確立する。</p> <p>②校内の相互授業参観や予備校講師による授業力向上セミナー等を活用して、良い授業実践を共有する。</p> <p>③観点別評価等における指導と評価の一体化に取り組む。</p> <p>(2)新学習指導要領に対応した取組</p> <p>①生徒による授業評価を観点別評価に則した質問項目ごとに学年別や普通教科・創造理数科・科学技術科の科目別に分析を実施し改善に資する。</p> <p>②各学年、教科ごとに小テストや課題提出状況を振り返る機会を設け、次の目標を明確にするサイクルを確立する。</p> <p>(3)適時・適切な課題(宿題)を設定し学習習慣の定着を図る。</p> <p>・課題の履行状態と目標達成度を把握し、個々の状況に応じた支援を行い、家庭学習時間の充実を図る。</p> <p>【数値目標】 授業評価アンケートの肯定的評価割合 85%以上</p>

(3) 自己評価 [ ] 内は令和6年度数値	(4) 次年度以降の課題と対応策
<p><b>1 特色ある教育活動 【A】</b> 【数値実績】</p> <p>(1)校内の研究発表会を全員参加型の学校行事として実施し、大学研究施設・企業の先生方から指導・助言をいただき研究の価値付けを図るとともに、学校全体レベルが向上した。また、1・2学年において、創造理数科・科学技術科合同での開催とし、二科の生徒の交流を図ることができた。</p> <p>①校外研究発表の件数 200 件以上 243 件 [212] ◎ 口頭・ポスターの発表件数が昨年以上のレベルで内容、件数ともに向上した。</p> <p>②全国大会レベルの受賞件数 20 件以上 30 [22] ◎ 千葉大学が主催する高校生研究発表会や全国規模のコンテストで例年以上に活躍した。</p> <p>③SSH関連研修・イベント参加生徒延べ人数 650 名以上 756 名 [680] ◎ SSH 合同発表会に1 学年からも積極的に参加した。理系女子を増やす取組(研究発表交流会、実習体験会など)を行った。</p> <p>(2)韓国ソフトウェアマイスター高校との合同研究を実現</p> <p>④海外交流、海外研究者講演会、英語研修 10 件以上 3 件 [6] △ 韓国姉妹校とオンラインで交流、10 月には先方が来校、12 月には訪韓し合同研究発表を実現。7 月に3 名の海外若手研究者の講演会実施、8 月に MIND SET PROGRAM を実施。海外学校間交流推進校として、1 月に4 名の生徒がマレーシア研修に参加。3 月に台湾・麗山高校が来校し相互研究発表を実施した。</p> <p>(3)東京大学生産技術研究所との連携2 年目、ANA、オリンパスなど企業連携が充実。</p> <p>⑤大学・企業との連携活動への参加生徒延べ人数 200 名以上 201 名 [280] △</p> <p>⑥読書率 75%以上 81% [70] ○</p>	<p>&lt;課題&gt;</p> <p>(1)について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>校外研究発表件数、全国大会レベルの受賞、二科合同の校内の研究発表会など、例年以上の成果、躍進が見られた。三浦海岸、尾瀬、西表島等でのフィールドワークを通して生徒が自身の研究を深めることができた。</li> <li>SSH 指定校(令和8 年度:SSH 第Ⅲ期経過措置)として、今後はこれらの活動について、近隣の小・中学校や東京都東部の他の高校に向けて発信及び普及を図ることが課題である。また、創造理数科・科学技術科が融合した探究カリキュラムを深化させることが課題である。</li> </ul> <p>(2)について</p> <p>新たに韓国ソフトウェアマイスター高校と協定を結ぶとともに、SSH 第Ⅲ期で計画していた海外校との共同研究を実現できたことは大きな成果であった。また、MIND SET PROGRAM を TOKYO GLOBAL GATEWAY での研修に移行する計画であるが、どのように行っていくのか具現化する必要がある。英検取得や英語研修を通して、生徒の英語力を伸長することが課題である。</p> <p>(3)について</p> <p>令和8 年度は創造理数科が完成年度を迎えるが、東京大学生産技術研究所と連携したワークショップ及び研究室訪問を継続していく。</p> <p>また、令和9 年度以降の連携について、理数科運営委員会で検討するとともに、必要に応じて教育庁指導部に支援を要請していく。</p>
<p><b>2 学習指導 【B】</b> 【数値実績】</p> <p>生徒による授業評価アンケートの肯定的評価割合 85%以上</p> <p>1 理数 1 科技 2 理数 2 普 2 科 3 普必 3 選 3 科 知・技 94.6 91.1 88.2 89.9 92.6 93.1 95.1 96.2 思・判・表 95.0 90.1 86.5 89.6 94.8 91.9 95.3 94.2 主体的 87.8 83.7 79.2 83.4 93.0 87.6 93.9 94.6 (注釈)単位:%、理数:創造理数科、科技:科学技術科、普:普通教科、科:科学技術科専門科目、普必:普通教科必修科目、選:普通教科必修選択及び自由選択科目</p> <p>※学年が進行しても肯定的割合が下降しておらず、ほとんどの項目で昨年以上の高い水準で向上している。</p> <p>○90%以上で ICT を活用した授業が展開されている。生徒の i-Pad の持参率が高く、授業において有効利用が図られている。</p> <p>○各教科において観点別評価が概ね適正に実施されている。</p> <p>○相互授業参観月間を設けて、お互いに授業を参観し、コメントをやりとりする流れを作った。</p>	<p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒による授業評価アンケートを2 回実施し、教員にフィードバックを行った。生徒一人一人の結果を分析して授業改善につなげる PDCA サイクルを確立することが課題である。</li> <li>分かり易い授業の展開に向けて、ICT 機器、一人1 台端末及び学習支援アプリの活用をより充実させることが課題である。</li> <li>日常的な相互授業参観を通して、教員が授業力を向上させることが課題である。</li> </ul> <p>&lt;対応策&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教科主任会を定期的開催し、課題を共有するとともに、より一層の指導と評価の一体化に向け改善を図っていく。</li> <li>進学指導等の充実事業(指導部・新規)を活用し、学力の底上げを図るとともに上位層を更に伸ばす。</li> <li>他校を含む相互授業参観、OJT、校外における研修などを通して、指導法の研究及び授業改善に取り組んでいく。</li> </ul>

(標語の説明) A: 設定した目標を高度に達成

B: 設定した目標を概ね達成

C: 設定した目標を達成するにはもう一歩

D: 設定した目標はほとんど未達成

(1) 教育活動の目標と方策	(2) 重点目標と方策 [ ]内は令和6年度数値
<p><b>3 進路指導</b></p> <p>(1) 3年間を通じた継続的・系統的な進路指導体制を構築する。</p> <p>①進路指導部主導の指導体制を確立し、一貫性あるキャリア教育を展開する。</p> <p>②外部模試毎に目標設定や分析会を実施するとともに、適宜ケース会議を設定するなどして学校全体で情報共有を図る。</p> <p>③自習室等の設置や自主学習体制の課題を整理するとともに、学習支援クラウド等のデジタル技術を活用した教育を推進する。</p> <p>(2) 国公立・難関私立大学の理系学部受験、および総合型・学校推薦型選抜に向けた指導を強化する。</p> <p>①年2回以上の生徒面談や年1回以上の三者面談を通して、生徒一人一人の適性・能力に応じた大学選抜方法等の指導を行う。</p> <p>②長期休業中の講習・補習、総合型選抜に対応した面接指導など個別指導を充実させ、多様な大学選抜方法を活用し、生徒の進路実現を支援する。</p> <p>③模試や共通テストに向けた土曜講習等の内容の充実を図る。</p> <p>(3) 生徒の進路実現に資する資格取得指導を展開する。</p> <p>①英語検定の事前指導を充実させ、受検を推奨する。</p> <p>②IT パスポート、電気工事士、危険物取扱者、溶接等の資格取得に向けて、計画的・組織的に取り組む。</p>	<p>(1) 生徒の自主学習時間の向上を図り、第一希望大学進学へ向けて支援する。</p> <p>①各種講演会、説明会、模試の振り返り指導を定期的に実施し進学意識を高めるとともに、学力推移を把握し、今後の指導に生かす。</p> <p>②学習支援クラウド等を活用し自学・自習の確立を図る。</p> <p>(2) 外部模擬試験等を計画的に実施し、個別ケース会議等を取り入れ、一人一人の生徒に応じたきめ細やかな指導を行う。</p> <p>①外部模擬試験の全員受験の事後指導の充実と希望者向け受験の活性化を図る。</p> <p>②きめ細やかに面接指導を展開し、卒業まで学びを継続する支援・指導を行う。</p> <p>(3) 模試対策や共通テスト、資格取得に向けて、教科ごとに目標を明確にして、計画的・組織的に取り組む。</p> <p>【数値目標】</p> <p>①国公立大学現役合格者数 20名以上 [15]</p> <p>②四年制大学現役進学率 75%以上 [59]</p> <p>③進路決定率 90%以上 [89.6]</p> <p>④授業時間以外での学習時間 2時間以上(全学年平均値) [134分]</p> <p>⑤長期休業の講習等の開講講座数 60件以上 [43]</p> <p>⑥英検準2級程度以上の合格者数 80名以上 [44]</p>
<p><b>4 生活指導</b></p> <p>挨拶から始まり、規律ある学校生活の中で、自立の精神を養う。</p> <p>①挨拶の響く明るい学校を推進し、教職員の率先垂範を徹底する。</p> <p>②遅刻防止指導と身だしなみ指導を全教職員で指導する。</p> <p>③授業時間を最大限活用するとともに、チャイム始業及び終業を徹底し、机上整理等の授業規律指導を通して、自己管理能力の育成を図る。</p> <p>④地域や関係諸機関と良好な関係を構築し、生徒の健全育成や、登下校のマナー向上などの課題解決を図る。</p> <p>⑤学校いじめ対策委員会を中心に指導体制を充実させ、いじめのない学校づくりを推進する。また、体罰や不適切な指導の根絶に努める。</p> <p>⑥防災教育推進委員会と連携し、地域と連携した防災訓練及び年4回の避難訓練を計画・実施する。</p>	<p>全職員が組織的に生活指導に取り組む。</p> <p>①「SNS 学校ルール」に基づいた指導に加え、「生徒一人1台端末」の体制を整備し、特に SNS に関する指導は年度当初のセーフティ教室等で徹底を図る。</p> <p>②年2回以上の生徒面談を実施し、生徒理解を深める。年1回以上の三者面談を実施し、保護者との連携を図る。</p> <p>③いじめアンケートを年3回(6月、11月、1月)実施し、いじめ等の重大事態の未然予防、早期発見に努める。</p> <p>【数値目標】</p> <p>年間遅刻回数 1日1学級1人未満 [0.78]</p> <p>学校評価アンケート「生活指導は適切か」生徒の肯定的評価の割合 90% [91.2]</p>
<p><b>5 募集・広報活動</b></p> <p>(1) 本校の認知度、教育活動への理解度を高め、本校を第一希望とする生徒を増やし、受検者増につなげる。</p> <p>①総務部を中心として募集対策委員会を学年・分掌を問わず編成し、積極的な募集広報活動を展開する。</p> <p>②ホームページ更新回数を増やし、教育活動や生徒の活躍を情報発信するとともに、学校案内やSNS等を効果的に活用する。</p> <p>③学校見学会、体験入学、学校説明会、個別相談等を実施するとともに、外部での合同説明会等に積極的に参加し、来校者数増につなげる。</p> <p>④創造理科及び科学技術科の特長や魅力を周知するため、中学校訪問・出前授業・塾対象説明会を実施し、幅広い地域からの志願者を開拓する。</p> <p>⑤授業公開、公開講座等により地域に開かれた学校づくりを目指す。</p>	<p>(1) 学校見学会・説明会の充実と適時・適切な情報発信を行う。</p> <p>①都立高校等のEXPO・相談会の開催や、学校見学会・説明会の一層の内容充実を図る。</p> <p>②定期的なHPトップの改訂とSSH関連行事の取組を発信し、本校の魅力を周知する</p> <p>③広報活動の実施時期に合わせた情報発信、説明動画の配信等を実施し、募集・広報活動の一層の効果を高める。</p> <p>【数値目標】</p> <p>①ホームページ更新回数 300件以上 [351]</p> <p>②入選推薦応募倍率 1.5倍以上 [理 0.63、科 1.01]</p> <p>③入選学力検査応募倍率 1.8倍以上 [理 1.95、科 1.01]</p> <p>④入選学力実受検倍率 1.2倍以上 [理 1.27、科 0.70]</p>

(3) 自己評価 [ ] 内は令和6年度数値	(4) 次年度以降の課題と対応策
<p><b>3 進路指導 【B】</b> 【数値実績】</p> <p>①国公立大学現役合格者数 20名以上 15名 [15] △ 東京農工大、電気通信大3、都立大4、滋賀大2、帯広畜産大2（以下一般選抜）電気通信大、室蘭工大、秋田県立大</p> <p>②四年制大学進学率 75%以上 65.3% [59] △ 都立大、早稲田、上智、東京理科等の指定校推薦を始め、東京理科等の一般受験合格者もいる。職業能力開発大学校3、水産大学校、千葉職能短大に合格者がいる。</p> <p>③授業外での学習時間 2時間以上 147分 [134] ◎ リクルートの到達度アンケート調査（3学年分）に加え、進路部でも調査を7月、2月に実施</p> <p>④長期休業中の講習等の開講講座数 60件以上 74件 [43] ◎ 昨年度に比べて開講講座数が大幅に増えた。各教科、各教員が意識的に多く開講をした。周知・募集方法の更なる工夫で参加生徒の増加が見込まれる。</p> <p>⑤英検準2級程度以上の合格者数 80名以上 26名 [44] △ 3月に1・2学年全員が外部会場でのS-CBT方式による英検を受検した。</p>	<p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国公立大学現役合格者数が昨年と同等であったが、20名の目標には届かなかった。土曜講習をアドバンス型として、上位層の伸長を図る必要がある。</li> <li>・国公立・難関私立大学の理系学部受験、及び総合型・学校推薦型選抜に向けた指導を強化するとともに、面談等を通して、早い段階から進路先を絞らせ、希望を叶えるための取組を徹底させる必要がある。</li> <li>・共通テストに向けた特別時間割が有効であったか検証するとともに、実施方法や内容を見直し充実を図ることが課題である。</li> </ul> <p>&lt;対応策&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習支援クラウド等を活用し自学・自習を促し、自主学习時間の増加を図る。</li> <li>・模試の分析会等を通して、模試の結果を分析し、生徒一人一人にフィードバックする。適時・適切な課題（宿題）を設定し、個々の状況に応じた支援を行い、家庭学習時間の充実を図る。</li> <li>・きめ細やかに面接指導を行い、卒業まで学びを継続する支援・指導を行うとともに、最後まであきらめないよう支援していく。</li> </ul>
<p><b>4 生活指導 【B】</b> 【数値実績】</p> <p>①自転車通学の生徒のヘルメット着用率は92%と高いものの、目標の95%に届かなかった。</p> <p>②年間遅刻回数 1日1学級1人未満 1.34 [0.78] △ 生徒部の登校指導、生活委員による挨拶運動などにより、通年で指導・啓発したものの大幅に増加してしまった。 ○学校評価アンケート 質問8（生活指導は適切か）生徒肯定的評価の割合 90%以上 86.7% [91.2] △</p> <p>③チャイム始業及び終業がほぼ徹底され、授業規律も適切に指導されている。</p> <p>④定期的に教育相談委員会を開催し、生徒情報の共有を図った。必要に応じてケース会議を開き、緊急事案にも迅速に対応した。</p> <p>⑤こころの教育プロジェクトを立ち上げ、今年度は「いじめ防止」の講演を行った。いじめアンケート実施後に聞き取りを行い、いじめの芽を早期に摘むことができた。</p>	<p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遅刻指導は回数に応じて学年、生徒部、管理職で指導しているが、特定の生徒が回数を重ねている現状がある。また、今年度もSNSの不適切使用の事案があり、未然防止と啓発を継続する必要がある。</li> <li>・発達特性が見られる生徒が増えている傾向があり、学校全体で支援する必要がある。</li> </ul> <p>&lt;対応策&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遅刻指導は年度当初に指導の在り方を全職員に周知し、課題を共有していく。また、SNSに関する講演会の実施や生徒集会で啓発するなど、継続的に指導していく。</li> <li>・教育相談委員会で校内の情報共有を図るとともに、必要に応じて関係する職員もメンバーに入れるなどして、対応策を協議、実行していく。3名のSC及び心理士との緊密な連携を図り、教育相談委員会を中心として学校全体で組織的に対応していく。</li> </ul>
<p><b>5 募集・広報活動 【C】</b> 【数値実績】</p> <p>①ホームページの更新回数 300件以上 327回 [351] ◎</p> <p>②入選推薦応募倍率 1.5倍以上 1.0倍 創造理数科 1.13倍、科学技術科 0.99倍 [理 0.63、科 1.01] △</p> <p>③入選学力検査応募倍率 1.8倍以上 1.02倍 理 1.86倍、科 0.96倍 [理 1.95、科 1.01] △</p> <p>④入選学力実受検倍率 1.2倍以上 0.73倍 理 1.45倍、科 0.48倍 [理 1.27、科 0.70] △</p> <p>※学校行事、部活動の様子などホームページの更新回数については目標を上回った。塾本部訪問等は実施できたが、中学校訪問等を広範囲に展開できなかった。 ※学力検査不受検者は42名（科学技術科 27名、創造理数科 15名） [57]</p> <p>第一希望の学校として選ばれる為、それぞれの学科の特長や魅力を粘り強く発信する。</p>	<p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生や保護者に対して、あらゆる機会を捉えて本校の特長や魅力を広く周知し、科学技術科・創造理数科ともに本校を理解した上で志願する受検生を増加させることが課題である。</li> </ul> <p>&lt;対応策&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・私学の授業料無償化、普通科志向の高まりなど、進学型専門高校である本校は厳しい状況に置かれている。黙って待っているだけでは生徒は集まらないので、開校当初に立ち返って一から募集・広報活動を展開する必要があると考える。以下、これまでの募集・広報活動に加えて考えられる取組（案）を示す。</li> </ul> <p>Instagramによる配信、中学校へポスター配付、全教員による中学校訪問、中学校への出前授業（生徒が先生役）、中学校に出向いての出張ポスター発表&amp;個別相談会、中学校を会場とする学校説明会、塾対象説明会、新入生アンケートの実施及び分析、学校説明会等における生徒による校舎内案内、学校説明会等における土曜講習、部活動の見学</p>

(標語の説明) A：設定した目標を高度に達成

B：設定した目標を概ね達成

C：設定した目標を達成するにはもう一歩

D：設定した目標はほとんど未達成

(1) 教育活動の目標と方策	(2) 重点目標と方策 [ ]内は令和6年度数値
<p><b>6 保健・健康づくり等</b></p> <p>(1)健全な心身を育む取組を実践する。</p> <p>①学校保健計画に基づき、体力や健康づくり、食育指導充実を図り、健康観察を継続し教室環境等を整備することにより感染予防体制を充実する。</p> <p>②スクールカウンセラー（以下、SCと略）や学校心理士等を活用した教育相談体制や、特別な支援を要する生徒へのケース会議等を実施する特別支援教育体制を充実させる。</p> <p>③清掃活動やごみの分別を徹底して校内美化活動を推進する。</p> <p>④健康診断や体力テストを活用し生徒の健康維持、体力向上を図る。</p>	<p>(1)教育相談機能の充実を図る。</p> <p>①SCによる1年生全員面接を1学期中に実施する。</p> <p>②教育相談委員会を定期開催し、要支援生徒情報を共有するとともに、必要に応じて即座に対応する。</p> <p>(2)美化・清掃活動を徹底する。</p> <p>①ごみの分別・削減に取り組むとともに、校内美化に取り組む。</p> <p>【数値目標】</p> <p>①教育相談委員会開催回数 15回以上〔15〕</p> <p>※教育相談に限らず特別な支援が必要な生徒にも対応する。</p> <p>②学校評価アンケート(清掃状況) 肯定割合 75%〔79.5〕</p>
<p><b>7 特別活動・部活動</b></p> <p>(1)特別活動・部活動を充実させ、生徒の帰属意識を高める。</p> <p>①体育祭、四葉祭等の学校行事において、実行委員会を中心に生徒が主体的に取り組む態度を育成し、成就感や達成感を高める。</p> <p>②部活動加入を奨励し、部活動加入率を高め、文化部・運動部ともに活動を活性化させる。</p> <p>③生徒会活動でリーダー性を育むとともに、委員会活動を充実させる。</p> <p>④地域や関係機関との連携を密にして、地域行事やボランティア活動への参加する活動を活性化させる。</p> <p>⑤学校 2020 レガシーを継承し国際理解やスポーツへの興味・関心を高める。</p>	<p>(1)学校行事の実施内容や形態を見直し、各学校行事の伝統継承や刷新の取組を支援し、一層の充実を図る。</p> <p>①最新のガイドラインに留意し、工夫・改善を図る。</p> <p>②生徒会・委員会における生徒の主体的な活動を支援する。</p> <p>(2)部活動の適正化及び活性化に取り組む。</p> <p>①生徒の実態把握に努め、保護者との連携を密にして、魅力ある部活動作りに取り組み、加入率を高める。</p> <p>【数値目標】</p> <p>①部活動加入率 75%〔66〕</p> <p>②学校評価アンケート(学校行事) 肯定割合 85%〔88.6〕</p>
<p><b>8 学校経営・組織体制</b></p> <p>(1)組織的な学校運営を推進する。</p> <p>①企画調整会議と各分掌、経営企画室との連携を強化する。</p> <p>②令和6年度に設置にされた「創造理数科」について、創造理数科運営委員会を定期開催し、関係する分掌及び教科間の調整を行い、創造理数科のカリキュラムの確立及び周知を図る。</p> <p>③年3回の服務事故防止研修等により、SNSの取扱い、答案紛失事故等の防止に向けた個人情報の適切な管理及び体罰根絶対策を徹底し、服務事故ゼロを達成する。</p> <p>④体育施設開放、公開講座の開講等により、本校の施設や教育力を地域等の都民へ広く還元する。</p> <p>(2)ライフ・ワーク・バランスを推進する。</p> <p>部活動の休養日設定、業務の効率化に努め、育児や介護等を支援する。また、教職員の勤務時間に対する意識改革を図る。</p>	<p>(1)マネジメントサイクルの機能を高める。</p> <p>①自律経営推進予算やSSH予算等を連動させ、有効活用することを念頭に経営企画室の経営参画を強化する。</p> <p>②創造理数科運営委員会を定期開催し、企画調整会議と連動させて全職員に周知していく。</p> <p>(2)ライフ・ワーク・バランス推進の取組として、教職員の在校時間の縮減を推進する。</p> <p>①学校閉庁日の適切な実施、「休暇取得促進ウィーク・月間」等を活用し、年休取得の促進を図る。</p> <p>②看護休暇・短期介護休暇・時差勤務等の利用を推奨する。</p> <p>【数値目標】</p> <p>学校評価アンケート(学校生活充実感) 肯定割合 85%〔89.2〕</p> <p>学校評価アンケート(学校生活満足度) 肯定割合 85%〔88.8〕</p>

(3) 自己評価 [ ] 内は令和6年度数値	(4) 次年度以降の課題と対応策
<p><b>6 保健・健康づくり等 【B】</b>  <b>【数値実績】</b>  ○教育相談委員会開催回数 15 回以上 15 回 [15] ○  ① 3 名配置となった SC や心理士にもつなげるなど、多様な生徒に対する対応がきめ細かく行うことができた。SC による 1 年生全員面接を 1 学期中に実施した。  ② 教職員対象のアレルギー対応研修 (5 月 14 日 (水))、各部活動 1・2 学年代表生徒対象の熱中症予防講習会 (7 月 5 日 (金)) を実施した。  ○学校評価アンケート 質問 15 (清掃状況)  生徒肯定割合 75%以上 83.4% [79.5] ◎  ③ 生徒のゴミの分別は概ね良好であり、ゴミの排出量・廃棄費用ともに前年度比 7 割弱程度に収まっている。</p>	<p>&lt;課題&gt;  ・教育相談では、特別支援に関する案件が増加傾向にある。情報を共有し具体策を検討し実行していくことが課題である。アレルギー対応に限らず医療に関する対応も、より組織的に取り組む必要がある。  &lt;対応策&gt;  ・教育相談委員会を中心に、支援の必要な生徒を早期段階で発見し具体的な支援につなげていく。また、年度当初に生徒情報の共有を徹底し、安心・安全な学校運営を目指す。引き続き SC、心理士、YSW 等の外部人材と連携した取組を強化する。  ・保健委員会、環境整備委員会の定期的な活動により校内衛生管理及び美化活動の充実を図っていく。</p>
<p><b>7 特別活動・部活動 【B】</b>  <b>【数値実績】</b>  ① 部活動加入率 75%以上 72% [66] ○  ・科学研究部の全国レベルでの受賞、ロボット部の南関東大会での入賞、バドミントン部、卓球部の工業スポーツ大会での優勝、演劇部員が都大会で生徒審査委員を務めるなど、文化部、運動部ともに活躍した。  ② 学校評価アンケート 質問 11 (学校行事を通した多様な生活体験をさせる工夫)  生徒肯定割合 生徒 85%以上 89.4% [88.6] ◎  ※ 体育祭は熱中症や感染症対策を徹底し、事故なく実施できた。実行委員の主体性、リーダー性が生まれ、生徒一人一人が達成感を得ることができた。四葉祭では本校ならではの科学技術に関連した独創的な出展が多数あり、来場者アンケートでも高い評価を得ることができた。</p>	<p>&lt;課題&gt;  体育祭・四葉祭ともに実行委員を中心に生徒の主体性やリーダー性の育成を目指した行事運営を推進する方向性は継続していく。部活動加入率を向上させるため、年度当初の取組を工夫するとともに、途中で退部することなく部活動を継続させていくことが課題である。  &lt;対応策&gt;  実行委員会や生徒会、クラス代表の生徒が主体的に行事運営に関われるよう、委員会等の生徒指導をさらに充実させる。年度当初の部活動紹介を充実させるとともに、適正な活動方針を示し活動内容を充実させる。部活動指導員を積極的に活用し、教職員のライフ・ワーク・バランスに資する。</p>
<p><b>8 学校経営・組織体制 【B】</b>  <b>【数値実績】</b>  学校評価アンケート 質問 2 (学校生活の充実感)  生徒肯定割合 85%以上 90.5% [89.2] ○  学校評価アンケート 質問 19 (学校生活の満足度)  生徒肯定割合 85%以上 87.3% [88.8] ○  ※ 学校生活の充実感は微増、学校生活の満足度は目標を上回ったものの微減となった。さらに質問 17 (SSH 事業の充実) についても 93.4% [93.8] であり、微減となった。  (1) ① 自律経営推進予算、SSH 予算、理数科予算の連動は問題なく運営できた。次年度に向けて予算ヒアリングで丁寧に関わり、連動を図っていく。  ② SSH 企画委員会、理数科運営委員会を定期的に開催し、本校のミッションと課題について共有し、方針や取組内容を確認できた。全体での委員会の合間に少人数でのミニ委員会の開催も行ったが、機動的で有効であった。  (2) ① 年 3 回の服務事故防止研修を始め、計画的に研修及び啓発を図り、服務事故ゼロに対する意識を醸成した。  ② 育児や介護等を支援する中、時差勤務について 10 名以上の申請があり、有効活用を図った。</p>	<p>&lt;課題&gt;  ・自律経営推進予算、SSH 予算、理数科予算を連動させて、引き続き計画的・効果的かつ効率的な執行を図っていく。  ・次年度は SSH 第Ⅲ期 6 年目 (経過措置) として取組を推進するとともに、再度のⅣ期申請に向けて科学技術科と創造理数科の融合など、具体的な検討を行う必要がある。早期に内容の再検討を行い、10 月を目安に研究開発実施計画書を完成させる必要がある。  &lt;対応策&gt;  ・SSH 企画委員会、理数科運営委員会を定期的に開催し、本校のミッションに基づいた具体策を決定していく。協議内容を企画調整会議に報告し、学校全体で情報共有を図るとともに、教科等横断、文理融合の理念を基に学校全体の取組として進めていく。  ・令和 7 年度に作成した SSH 第Ⅳ期研究開発実施計画書に基づいて、文部科学省からの指摘事項等を踏まえて再構築していく。  ・業務内容の精選、プロジェクトチームによる機能的な運営、JET の活用などを学校全体で図っていく。</p>

(標語の説明) A : 設定した目標を高度に達成  
C : 設定した目標を達成するにはもう一歩

B : 設定した目標を概ね達成  
D : 設定した目標はほとんど未達成